

五戸総合病院での研修を終えて

大阪市立大学医学部附属病院

2年次研修医

山本 悟

大阪市立大学医学部附属病院初期研修医の山本 悟です。1月の1ヶ月間、地域医療で五戸総合病院の外科で研修させていただきました。大学病院とは違う環境で戸惑うことも多かったですが、外科の先生方や病院スタッフの方のご指導のおかげで充実した研修生活を送ることが出来ました。

入院患者さんも様々な疾患があり、予定手術や腸閉塞など一般外科としてメジャーな疾患もの患者さんもいれば、褥瘡、胃瘻交換の患者さんなど大学病院では見ない症例を幅広く経験させていただきました。手術でも粉瘤やポート造設などで執刀をさせて頂きながら術中麻酔、器械出しなど手術に関わる色々な仕事を体験する貴重な機会を頂きました。

訪問診療や特別養護老人施設診療では家族や職員の方々の細かいケアを感じました。それぞれの方で体調などの変化を細かく把握していて診療もよりスムーズに行えるよう気配りがされていました。

この1ヶ月の研修では病院スタッフのお互いの助け合いや気配りがあり、病院全体でワンチームとして動いているという印象を受けました。大学病院ほどの大規模になるとやはり連携という面ではどうしても劣ってしまいます。五戸総合病院ではそれぞれが自分の仕事を必死にこなしながら、少しでも余裕があればできる範囲で助け合う習慣があり、スタッフ間の温かさというものを感しました。

プライベートでは近年まれにみる大雪のために青森を十分には満喫できなかったですが、人生初となるかまくら作りが出来たのは貴重な体験でした。また、郷土料理や地酒などをいただくこともあり、青森・五戸の魅力というものをたくさん知ることが出来ました。

最後になりますが、安藤院長、杉沢先生、後村先生をはじめとする病院スタッフの方々には多くの面でご迷惑をおかけしながらもいつも優しくしていただいたことに感謝申し上げます。この貴重な経験を糧として残りの研修生活、そして来年度からの外科専攻でもより精進して参りたいと思います。